静岡陸上競技協会
審判講習会

２０２６年　５月　９日（土）

四ツ池陸上競技場

ルールブック等に記載される記号

- ① CR（Competition Rule：競技会規則）

- 実際の競技の進め方や判定に関するルール
- 競技会の現場で審判が直接使うルール

【例】申し込みや参加資格、シューズ規定、審判員の配置、記録の承認、スタートのルール（フライングなど）、失格の条件、フィールド競技の試技数

「競技会をどのように運営するかというルール」

ルールブック等に記載される記号

②TR（Technical Rule：技術規則）

・各種目の技術的な細かい規定
・用具や競技方法の詳細

【例】走高跳のバーの上げ方、砲丸の重さ、ハードルの高さ、走路や助走路の規格、測定方法など

「種目ごとの技術的なルール」

ルールブック等に記載される記号

- CR：競技運営・判定の基本ルール
- TR：各種目の細かい技術ルール

2025年度修改正　競技会規則【CR】

- **新規種目**
  - ➢男女300mH

    TR22.1、22.3

    ✓国内規格（2018年度～）
    - ・U20、U18
    - ・ハードル８台
    - ・スタート～１台目：45m、ハードル間：35m、最終ハードル～フィニッシュ：10m

    ✓国際規格（2026年度～）
    - ・一般、U20、U18
    - ・ハードル7台
    - ・スタート～１台目：50m、ハードル間：35m、最終ハードル～フィニッシュ：40m

  - ➢４×100m男女混合リレー

    TR24.1、24.11

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR22.1、22.3　　300mH　④**

陸連 25 発 4006-1 号
2025 年 6 月 2 3 日

各加盟団体専務理事・理事長各位

公益財団法人日本陸上競技連盟
専務理事　田﨑　博道

WA の 300mH 公認種目認定に伴う国民スポーツ大会、U18 陸上競技大会
での取扱について

平素は、日本陸上競技界発展のため格別のご協力を賜り、厚くお礼申上げます。
さて、ワールドアスレチックス（WA）は 2025 年 3 月 24、25 日のカウンシル会議にて 300mH を公認種目として認定することを決定しました。しかしながら、本連盟が国民スポーツ大会、U18 陸上競技大会において採用している規格と異なっておりました。
本件に関する取扱について検討しました結果、下記の通りといたします。
関係者へのご周知の程、ご協力よろしくお願いします。

記

- 2025 年度は、国民スポーツ大会、U18 陸上競技大会は国内規格で実施する。
- 2026 年度から、国民スポーツ大会、U18 陸上競技大会は WA 規格で実施する。

2026年度修改正　競技会規則【CR】

- **CR31.14.4　混成競技の記録の扱い（明確化）②**
  - CR31.14は「競走競技と競歩競技の世界記録」について定めたもの
  - CR31.14.4　以下の場合を除き、TR17.3に違反したら、その記録は世界記録としては認められない。

〔注釈〕

- 混成競技で１回目に不正スタートをした競技者が、2回目以降のスタートで当該個別種目の世界記録を出しても、世界記録としては認められない。1回目に不正スタートをしていない競技者が世界記録を出した場合は世界記録として認められる。
- 尚、国内においては日本記録も同様の扱いとなるが、1回目に不正スタートをした者でも、2回目以降のスタートで出した記録は公認記録として認められる。

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR3.3　競技の性別カテゴリー**
  - ➢男性・女性の２つのカテゴリーのみ

- **TR9　　競技区分**
  - ➢男子競技　　男子のみで実施し、結果も「男子」のみでグルーピング
  - ➢女子競技　　女子のみで実施し、結果も「女子」のみでグルーピング
  - ➢男女混合競技　男子と女子が一緒に参加し、結果も「男女一体」でグルーピング
    例）4×400m男女混合リレー
  - ➢男女同時実施競技　　原則、認められない
    男子と女子が同時に競技を行うが、結果は「男子」「女子」に分けてグルーピング
    例）同一時間帯に同じピットで行われるフィールド競技

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR5.2　競技用靴①**
- **競技用靴に関する規程　（別途説明）**

＜2024年11月1日～＞

種目	靴底の最大の厚さ	要件・備考
トラック種目 ハードル種目 障害物競走	20mm ｽﾊﾟｲｸｼｭｰｽﾞ または ﾉﾝ･ｽﾊﾟｲｸｼｭｰｽﾞ	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。競技場内で行う競歩競技の靴底の厚さは、道路競技と同じとする。
フィールド種目	20mm ｽﾊﾟｲｸｼｭｰｽﾞ または ﾉﾝ･ｽﾊﾟｲｸｼｭｰｽﾞ	全跳躍種目で、本規程10.3および10.4に記載のとおり、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない（前足の中心は、靴の内部の長さの75％にある靴の中心点。 踵の中心は、靴の内部の長さの12％にある靴の中心点）。
道路競技（競走・競歩）	40mm	
クロスカントリー	20mm ｽﾊﾟｲｸｼｭｰｽﾞ または 40mm ﾉﾝ･ｽﾊﾟｲｸｼｭｰｽﾞ	競技者はスパイクシューズまたはノン・スパイクシューズ（ロードシューズなど）を履くことができる。 スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは20mmを超えてはならない。 ノン・スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは40mmを超えてはならない。
ﾏｳﾝﾃﾝﾚｰｽとﾄﾚｲﾙﾚｰｽ	制限なし	

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR5.2　競技用靴②**
- **競技用靴に関する規程　（別途説明）**

＜2026年1月1日～＞

種目	靴底の最大の厚さ	要件・備考
トラック種目 フィールド種目 （競歩を除く）	ｽﾊﾟｲｸｼｭｰｽﾞ または ﾉﾝ･ｽﾊﾟｲｸｼｭｰｽﾞ 20mm	すべての跳躍種目では、前足部中央のソールは踵中央のソールより高くなってはならない。 （競技用靴に関する規程8.3項および8.4項参照：シューズ内部の長さの12%と75%の位置）。
競歩種目 （トラック、道路） 道路競走種目	40mm	
ｸﾛｽｶﾝﾄﾘｰ種目	ｽﾊﾟｲｸｼｭｰｽﾞ：20mm または ﾉﾝ･ｽﾊﾟｲｸｼｭｰｽﾞ ：40mm	2026年3月31日まで適用。 競技用靴に関する規程8.6項により、2026年4月1日以降はｸﾛｽｶﾝﾄﾘｰ種目で着用するｽﾊﾟｲｸｼｭｰｽﾞ、ﾉﾝ･ｽﾊﾟｲｸｼｭｰｽﾞの厚さに制限は設けない。
ﾏｳﾝﾃﾝﾚｰｽとﾄﾚｲﾙﾚｰｽ	制限なし	

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR5.2　競技用靴③**

（新規追加）

〔国内〕

駅伝競走は道路競走種目と同じ（靴底の最大の厚さ：40mm）とする。
但し、競技会レベルに応じて主催者が適用・非適用を判断することは
妨げない。

2026年度修改正　競技会規則【TR】

国内のみ

- **TR8.7**　　**上訴時の預託金の引上げ**　（制定様式変更あり）

＜WA＞

➢100USドル相当（約15,000～16,000円）

＜JAAF＞

（現行）

➢10,000円

（修改正後）

➢20,000円

【参考】

＜WPA（パラ陸連）＞	200ユーロ相当	（国内規則：2万円）
＜水泳＞	500USドル相当	（国内規則：5万円）
＜スキー＞	500スイスフラン相当	（約10万円）

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR16.5、16.8、16.9　　スタート時に不正スタート等があった際のカード以外での提示**

（現行）

➢リコールや不正スタート等があった際にはカード（グリーン、赤黒、黄黒）を示す

（修改正後）

➢カードに代わり、スクリーンに表示したり、ライトタワーに表示したり、スピーカーを使ったり、視覚的または聴覚的な代替手段を用いてもよい

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR17.3〔注釈〕①**

  ➢日本選手権男子400mの事案を受けて**白線を踏むとはどういうことか**、**どこに注目して監察すべきか**を明確化

＜条文＞

✓ TR17.3.3　レーンで行う（一部をレーンで行う場合も含む）全てのレース（TR17.2.4参照）の曲走路で、レーンの左側の白線や走路の境界を示す　内側の縁石または白線に1回（1歩）だけ触れた場合。

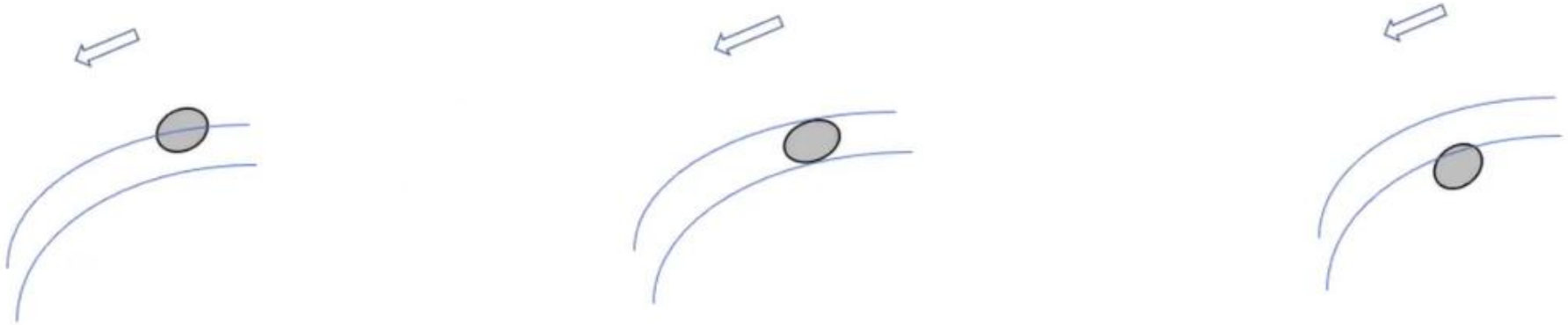
✓ TR17.3.4　レーンで行わない（一部をレーンで行わない場合も含む）全ての　レース（TR17.2.4参照）の曲走路で、走路の境界を示す縁石または白線　　を1回（1歩）だけ踏んだり、完全に越えたり（内側に入ったり）した場合。

2026年度修改正　競技会規則【TR】

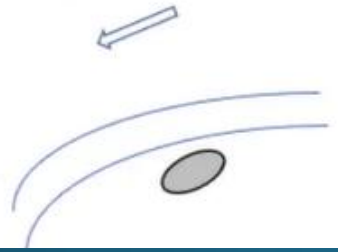
- **TR17.3〔注釈〕②**

2022年度修改正説明時資料（2021年2月全国会議）

・1回目（1歩目）は失格としない
（同一種目の次のラウンドに繰越し　→　次ラウンドでの1回（1歩）は累計2回で失格

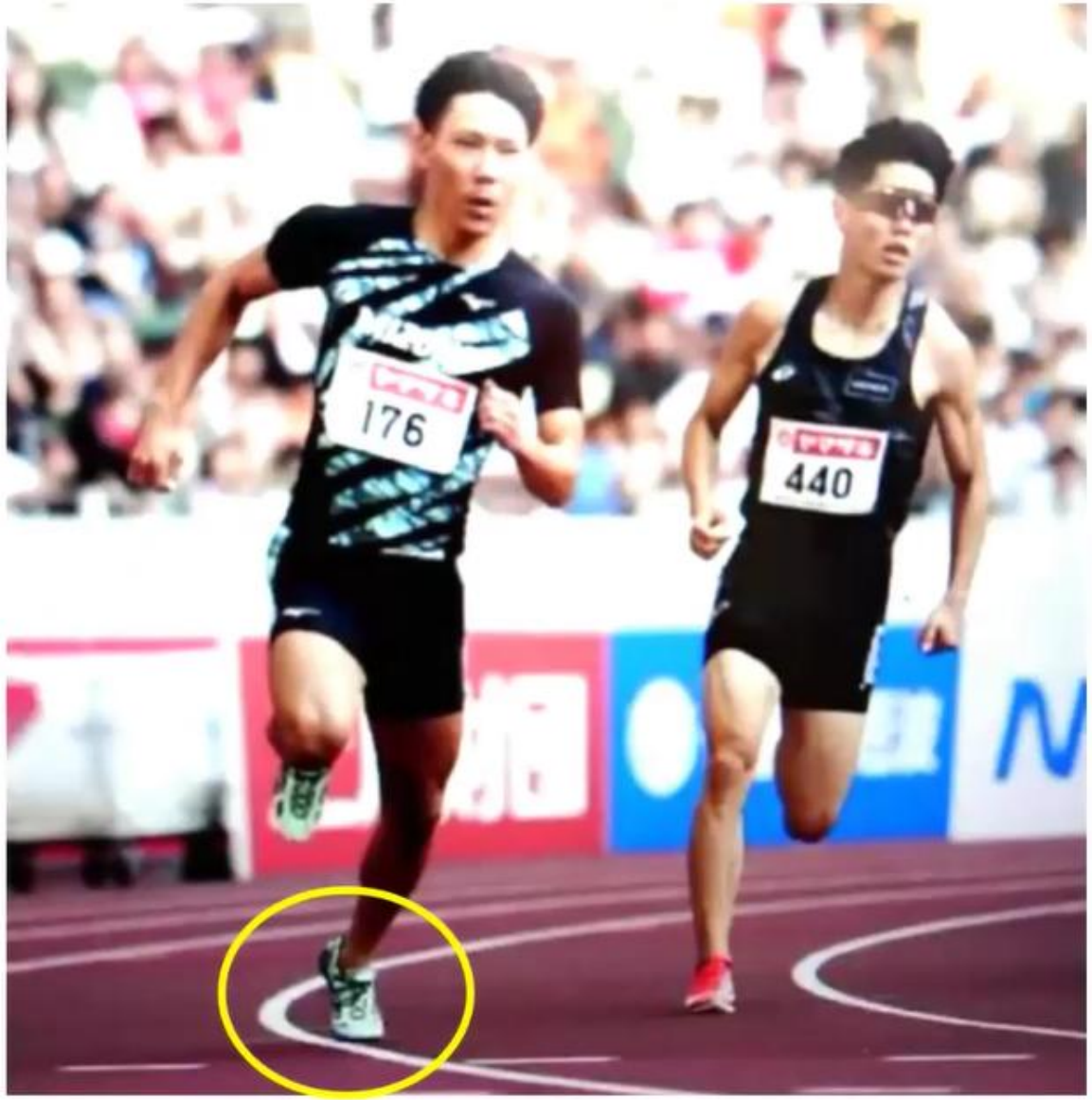


・1回目（1歩目）であっても失格



2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR17.3〔注釈〕③**
  ＜2025年6月日本選手権
  男子400m決勝＞

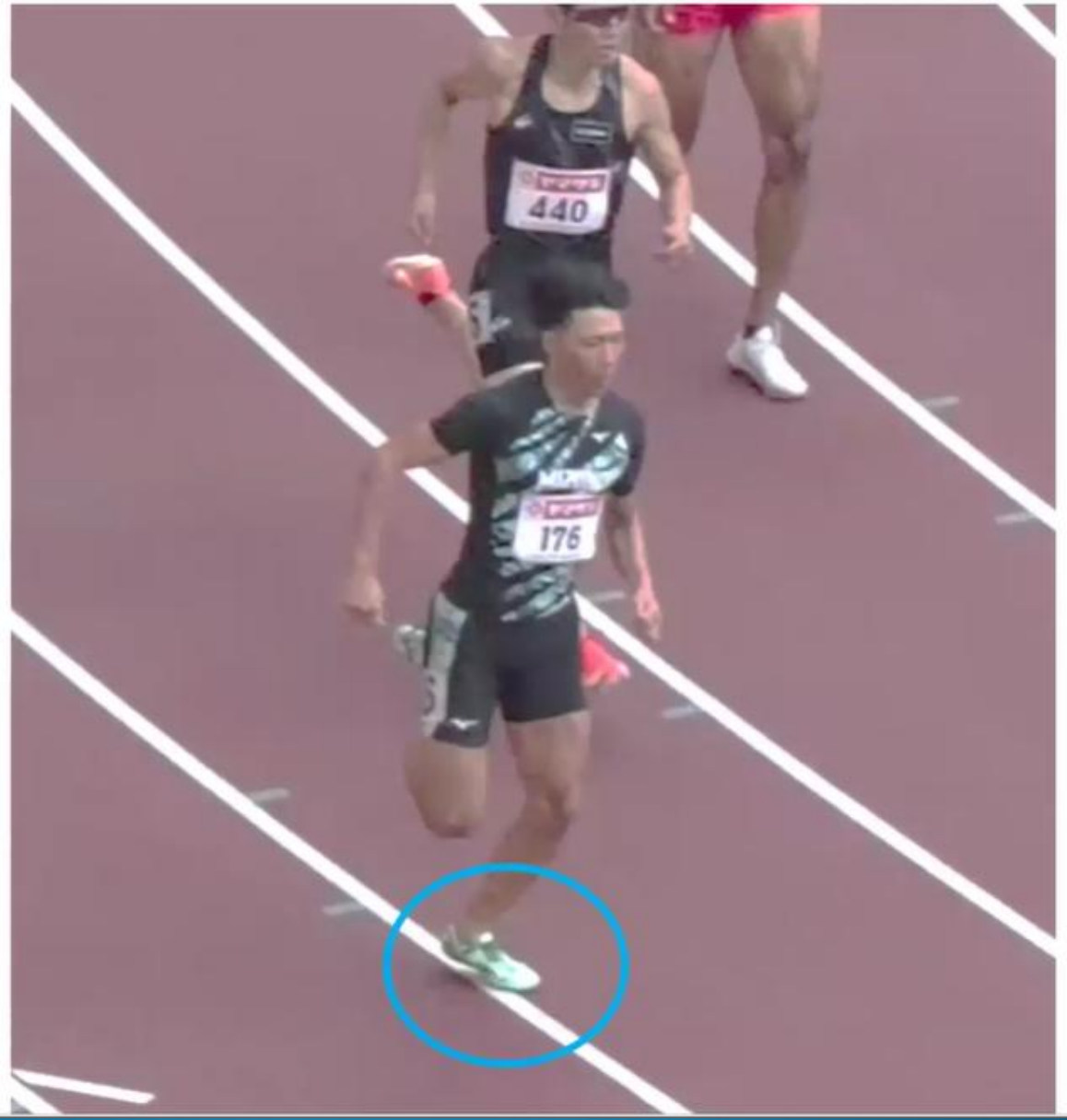


2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR17.3〔注釈〕④**

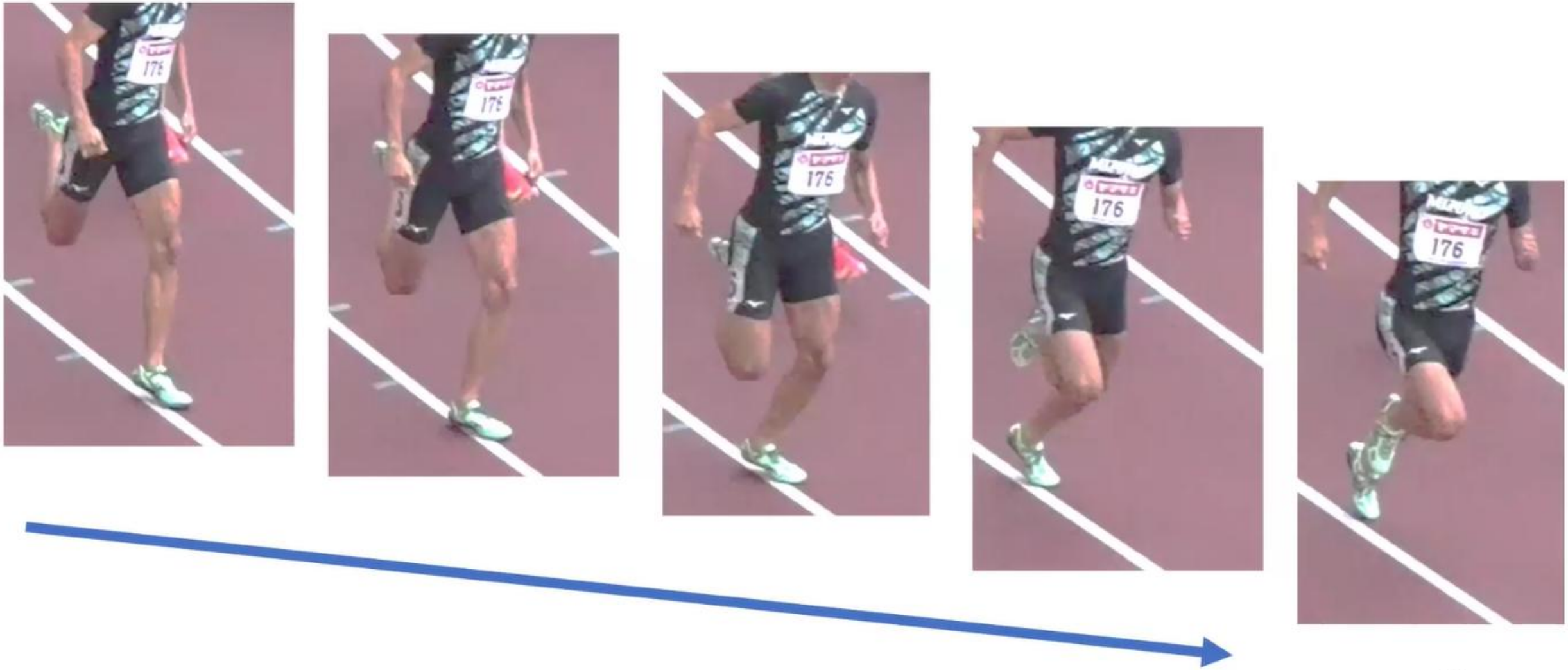
2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR17.3〔注釈〕⑤**



2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR17.3〔注釈〕⑥**



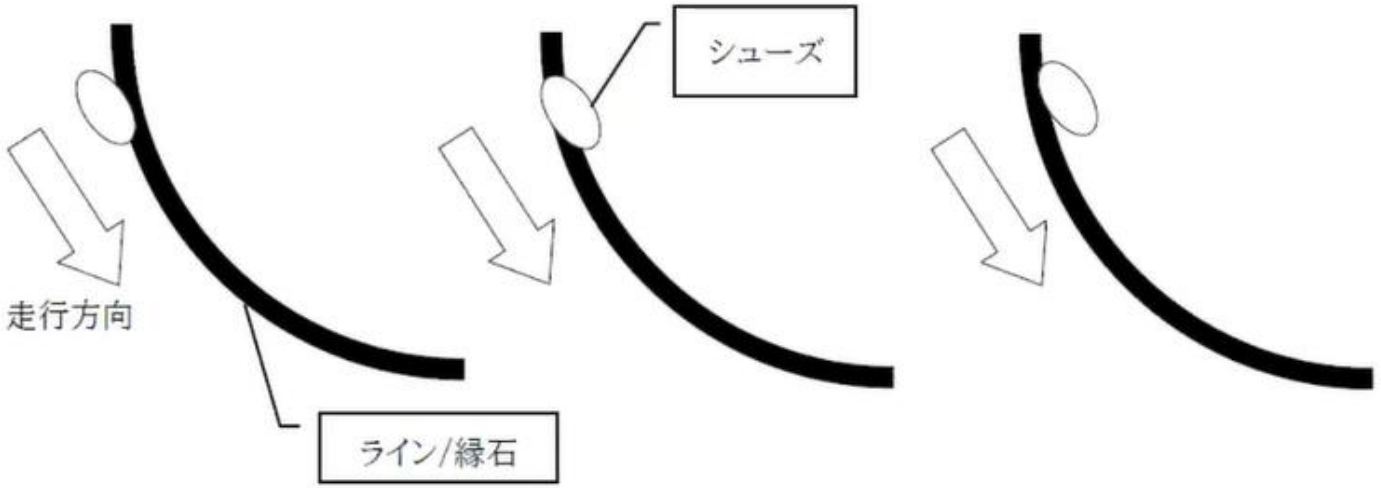
2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR17.3〔注釈〕⑦**

（追加）

曲走路の内側を踏んだかどうかの判定は、一歩の中で接地から離地までの間に、一瞬でも内側のラインに触れていれば違反とは見なさない。一歩の動き（接地から離地まで）をよく監察する必要がある。

＜違反とならないケース＞



2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR17.3〔注釈〕⑧**

  - ビデオでは「一連の動き」をチェック
  - 主催者の判定ビデオだけでなく、チーム（競技者）提供ビデオも判定材料

  - 審判長はビデオ映像と監察員からの報告の両方を見て判断
  - ビデオがない場合は「監察員の報告」が唯一の判断材料になることも

  - 抗議・上訴の説明時に、監察員記録用紙も「エビデンス」として競技者（チーム）に提示することを前提に、簡潔に、きちんと記載する

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR17.5.2〔国内〕 グループスタートの代用縁石の位置①**

（現行）

第1グループと第2グループの走路の間には代用縁石を置き、二つに分ける。
合流地点には他とは異なる彩色の代用縁石を置く。

（追加）

第2グループのスタートは、第1グループと第2グループの走路の間のラインの外端から200㎜外方を測り、ライン上に150mm～500mmの高さのコーンを置く（200㎜外方スタートライン）。当該箇所またはトラックの改修および公認満了2032年3月31日までの検定までに適用する。

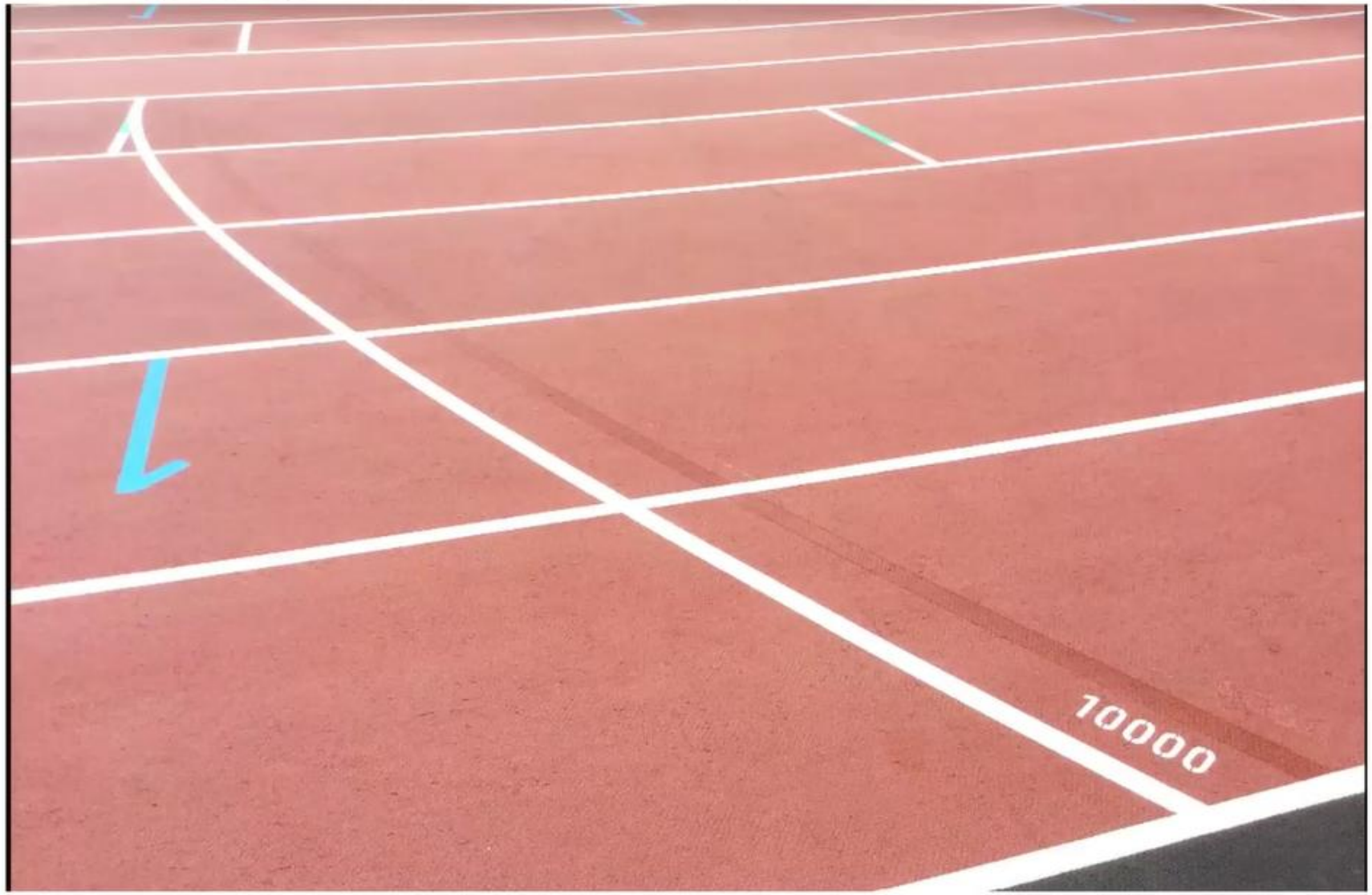
→ スタート位置の移動

【参考】TR14.2〔国内〕

国内の競技場では代用縁石を置くところは縁石とみなし、300㎜外方 を測る。

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR17.5.2〔国内〕 グループスタートの代用縁石の位置②**



2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR20.4.4　300m競走のシードレーン（明確化）**

➢200m競走・300m競走〔8レーン使用時〕

1～3位グループ　5・6・7レーン
4～6位グループ　3・4・8レーン
7・8位グループ　1・2レーン

⇒　300mは200mと同じシードレーンとする

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR22.6　　ハードル競技の失格事由の明確化①**

22.6.3　直接間接を問わず、レース中に自分のレーンまたは他のレーンのハードルを倒し、レース中の他の競技者に影響または妨害を与え、他の規則にも違反する行為をした時。

22.6.4　直接間接を問わず、レース中に自分のレーンまたは他のレーンのハードルを移動させ、レース中の他の競技者に重大な影響または妨害を与え、他の規則にも違反する行為をした時。

➢単に倒したり、移動させただけでは失格事由にならない

倒したり、移動させたことによって、他の競技者に影響を与えたか

（例：リズムの変化、ストライドが短くなるまたは長くなる、走る方向の変化、ハードルが移動しなければ起こらなかったハードルへの衝突など）

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR22.6　　ハードル競技の失格事由の明確化②**
  - ➢東京世界陸上2025　男子400mH決勝

M_400mH_Final_Hurdle Foul _BENJAMIN_USA_NFA
SEIKO
NIGERIA
WORLD ATH
USA

資料共有PC

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR24.6　　落としたバトンを拾うためにレーンを離れた後の動き①**

バトンを落した場合、落とした競技者がバトンを拾って競技を継続する。

（現行）

競技者は距離が短くならないことを条件に、バトンを拾うために自分のレーンから離れてもよい。

バトンを落とした時、バトンが横や進行方向(フィニッシュラインの先も含む)に転がり、レーンから離れて拾い上げた後は、競技者はバトンを落とした地点に戻ってレースを再開しなければならない。

（修改正後）

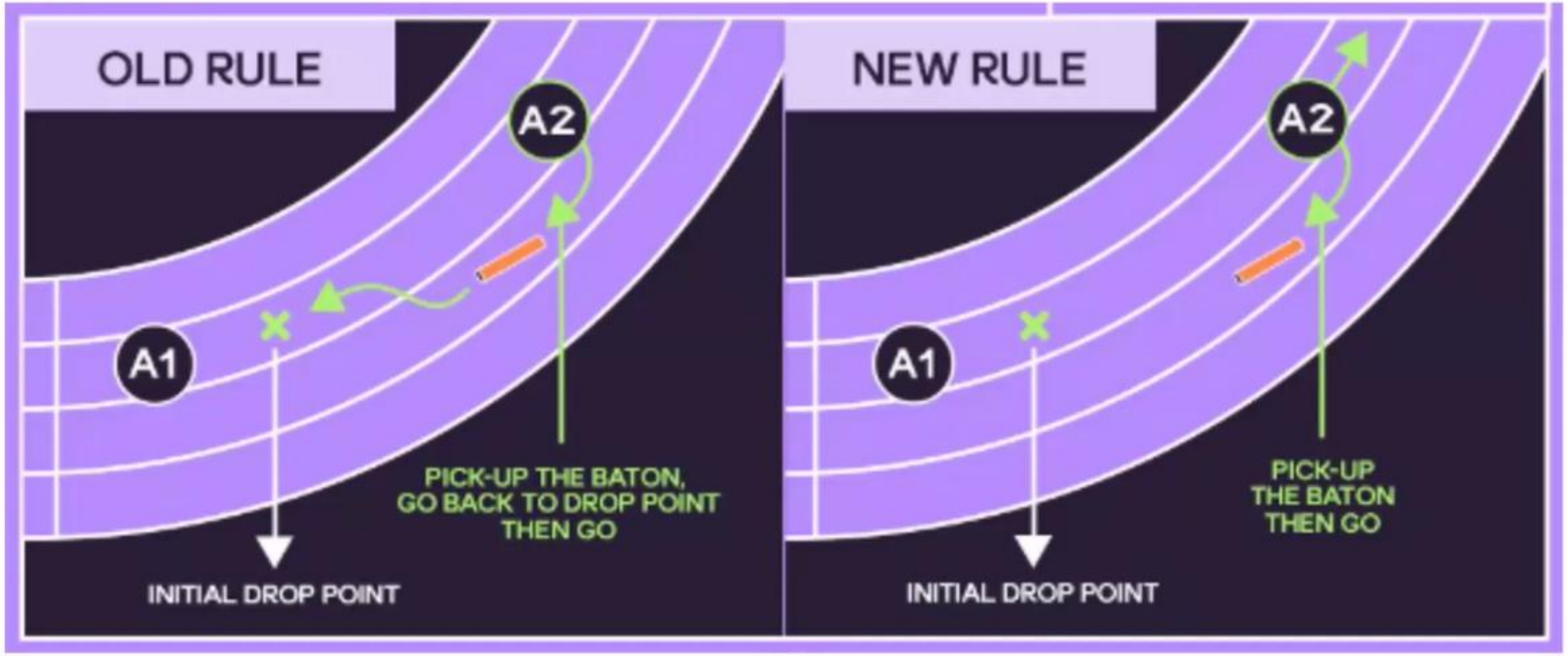
走る距離が短くなること、他の競技者を妨害することが**あってはならない。**

フィニッシュラインを通過する際は、当該チームの最終走者がバトンを持っていなければならない。

→　曲走路では自分のレーンから離れた方向が、内側か外側かをチェック

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR24.6　　落としたバトンを拾うためにレーンを離れた後の動き②**

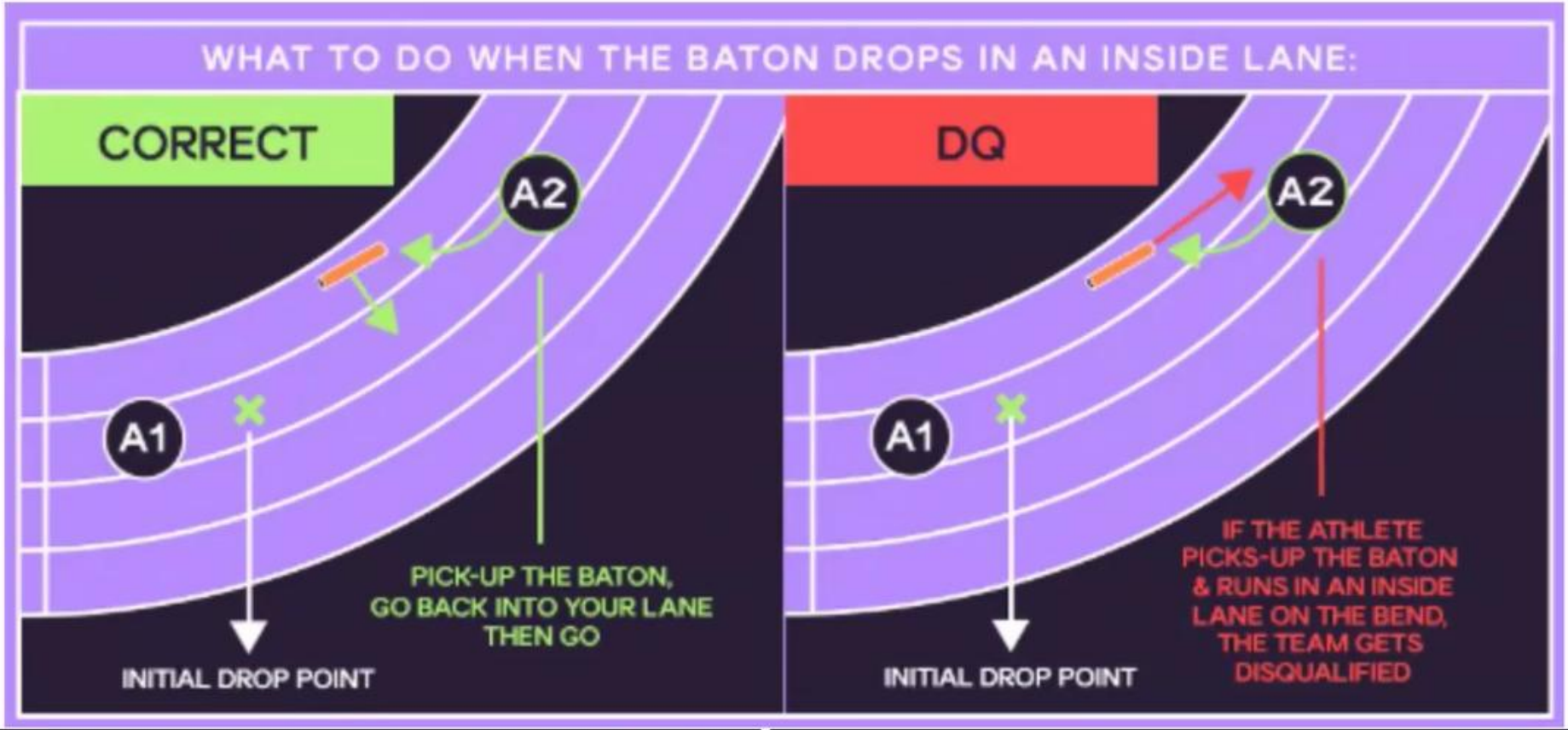


（従前）
バトンを落とした位置に戻ってから競技を続行しなければ失格となる

（修改正）
走る距離が短くならなければ、バトンを拾った位置から競技を続行しても失格にならない

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR24.6　　落としたバトンを拾うためにレーンを離れた後の動き③**



（修改正後）バトンを拾った後の正しいの走り方
バトンを拾ってから自分のレーンに戻って
競技を続行すれば問題ない

（修改正後）バトンを拾った後の失格となる走り方
バトンを拾ってから内側のレーンを走った後に
自分のレーンに戻って続行した場合は失格

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR24.6　　落としたバトンを拾うためにレーンを離れた後の動き④**

【原則】

➢レーンで行うレースでは、自分に割り当てられたレーンを走らなければならない
内側のライン上またはその内側を踏んだり走ったりしてはならない
（TR17.2.3）

➢リレー競技のレース中はバトンを手で持ち運ばなければならない
（TR24.5）

➢バトンを落とした場合には、落とした競技者がバトンを拾って継続する
（TR24.6　前段）

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR24.6　　落としたバトンを拾うためにレーンを離れた後の動き⑤**

【今次修改正】

➢不可抗力等によってバトンを落とし、レーンを離れてバトンを拾い競技を再開する際に
走る距離が短くなっていなければ、バトンを持たずに走る部分があっても失格としない

➢フィニッシュ手前でバトン落とし、前方に転がった場合は、バトンを拾った後にフィニッシュライン手前まで戻ってからレースを再開する必要がある

➢故意にバトンを投げたり、落としたりしたら失格

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR24.10　　リレーの交代要員**

〔国際〕　（現行）　　最大4名まで
　　（修改正後）　　最大2名まで

- **TR24.11、24.12　男女混合リレーの走順**　（制定様式変更あり）

4×100m男女混合リレー、4×400m男女混合リレー共に
男子－女子－男子－女子　の順

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR25.14　　高さの競技の予選**　（明確化）

【現行】

走高跳と棒高跳の予選では、3回続けて失敗していない競技者は、もし決勝進出者数がTR25.12で規定された人数に達していなければ、TR26.2（試技のパスを含む）に従い、決められた予選通過標準記録の高さの最終試技が終わるまで試技を続ける。
決勝進出が決定した競技者は、予選の試技を続けることはできない。

【修改正後】

走高跳と棒高跳の予選では、3回続けて失敗した競技者を除き、TR26.2（試技のパスを含む）に従って、設定された予選通過標準記録の高さにおける最後の試技が終了するまで競技を続ける。
但し、TR25.12に定める決勝進出者数に達した場合は除く。
決勝進出が決定した競技者は、予選の試技を続けることはできない。

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR28.1　　PVの試技開始の合図のタイミング**

（考え方はこれまでと変更なし）

競技者がバーの位置の変更を希望する時は、事前に申告した希望位置でバーがセットされる前に、審判員に申し出る。試技時間のカウントが開始されたら、バーの位置をそれ以上変更することはできない。

（但し、WA解釈としてGreen（斜字）部分に追加）

連続試技の場合、審判員は次の試技が始まる前に、バーの位置を変更する意思があるかどうかを競技者に確認する。

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR29.5　　LJ、TJの踏切位置判定ビデオ**

TR30.1.1を適用した判定をするにあたり、審判員を支援するため、ワールドランキングコンペティション定義1.(a)(b)に該当する競技会においては、1秒あたり120フレーム、最低でも4K解像度で撮影できるビデオ技術を使用するものとする。

その他の競技会では、このような技術の使用が強く推奨されるが、難しい場合は代替システムを使用してもよい。

但し、このような技術が利用できない場合は、踏切線のすぐ先に設置した粘土板を使用することができる。

→ 国内競技会でビデオ判定を行う際に使用するカメラのスペックについては規定を設けないが、きちんと判定できる画質やコマ送り、スロー再生等の性能が備わっていることが望ましい。

2026年度修改正　競技会規則【TR】

- **TR29.5　　LJ、TJの踏切位置判定ビデオ②**

競技用靴に関する規程（WA）①

- 適用対象競技会　全てのWRk
- 使用可能シューズ　種目別に使用が認められている承認シューズ
  承認シューズリスト記載のシューズ
  https:// certcheck.worldathletics.org/FullList
- 承認シューズ　市販シューズ（Available Shoe）
  開発用シューズ（Development Shoe）
- カスタマイズ　医療目的の矯正に限定され、WAの事前承認要（承諾通知書）
  軽微なものでもWAへの事前通知が必要
- 事前チェック（招集所）　不可
- 事後チェック　疑義があった場合、競技終了後にチェック
  必要があれば現物回収、WAへ送付
- 未承認シューズの使用　失格
  競技会終了までに承認・未承認の判定ができない場合は
  記録は非公認（UNC TR5.2）
- シューズコントロールオフィサー　原則、シューズチェック専門担当者として任命

競技用靴に関する規程の国内適用①

	WA規程	国内適用
対象競技会	・全てのWRkに適用	・全てのWRkに適用 ・非WRkも原則として適用*
使用可能シューズ	・種目別に使用が認められている承認シューズを使用しなければならない ・承認シューズリスト https:// certcheck.worldathletics.org/FullList	
承認シューズ	・市販シューズ（Available Shoe） ・開発用シューズ（Development Shoe）	
カスタマイズ	・医療目的の矯正に限定され、WAの事前承認要　（承諾通知書の携帯必須） ・軽微なものでもWAへの事前通知が必要	

競技用靴に関する規程の国内適用②

	WA規程	国内適用
事前チェック（招集所）	・シューズチェックをしてはならない	・招集所ではピンチェックのみで可 ・靴底厚の計測は不要 ・主催者判断で事前チェックを行うことは妨げないが、その際のチェックは承認シューズリストとの照合のみ実施 ・この場合、未承認靴であれば指摘し、交換を求める ・未承認靴のまま競技に参加した場合は、失格扱い ・承認靴／未承認靴の判定ができないまま競技に参加させることは可能だが、その情報は関係する他の審判員と共有
未承認シューズでの競技	・競技会終了までに未承認シューズと判断された場合は失格とする。 ・競技会終了までに判断できない場合は、失格とせず、記録は非公認（UNC TR5.2）とする。	・競技会終了までに未承認シューズと判断された場合は失格とする。 ・競技会終了までに判断できない場合は、失格とせず、記録は非公認（UNC TR5.2）とする。 ＜結果発表時は「N.M」＞ ＜記録申請時には当該記録は除外＞ ＜記録証発行時は「非公認」と明記＞ ・後に承認シューズと判明したら、結果訂正

競技用靴に関する規程の国内適用③

	WA規程	国内適用
シューズ コントロール オフィサー	・原則、シューズチェック専門担当者として任命する	・任命が必要な競技会（候補） ✓WRk１：GGP、ラベルロードレース ✓WRk２：アジア大会、WAパーミット競技会 ✓WRk３：一般およびU20の各日本選手権 全日本実業団、日本インカレ、 インターハイ ・その他競技会での任命は主催者判断で可 ・オフィサーと総務員の兼任も可 ・オフィサーを任命しない競技会では、トラック審判長、フィールド審判長がチェック実施

＊ 国内・非WRｋへの適用の考え方

・当該規程を適用するかどうかは、主催者判断

・普及的要素の強い競技会や競技レベルが高くない競技会では、適用することが現実的でないものもあり

・上位大会につながる競技会や競技レベルが高い競技会では、記録の公平性をより厳格に担保する観点から適用する

※医療用テープに関する規程の修正（Book C C-7.4）

6.5　競技者が使用する医療用テープまたは、一般的なテープは、無地でも、テープに 競技者の名前が付いていても構わない。**商品名/ロゴの表示のある医療用テープまたは、一般的なテープの使用は認められない。**

〔注釈〕商品名/ロゴの表示のある医療用テープまたは、一般的なテープの使用には、大会主催者の書面での承認が必要となる。
〈参照 Book C、C7.4『ガイドライン』「MEDICAL/GENERAL TAPE」の欄〉

〔国内〕C7.1 1.1.1〔国内〕の競技会では、競技者**は、**競技規則に反しない限り、**商品名/ロゴの表示のある**医療用テープまたは、一般的なテープを使用することができる。表示できる製造会社(商品)名/ロゴは、１枚につき最大の大きさは、10㎠とする。

個人の所有物およびアクセサリー

すべてのタオル（ビーチ、バス、ハンド、フェイス）およびブランケット

1 x 製造会社名/ロゴ
2 x アスリートスポンサー名/ロゴ
1 x 競技者名または個人のｿｰｼｬﾙﾒﾃﾞｨｱﾊｯｼｭﾀｸﾞ

→

それぞれ
40cm²—
最大の高さ 5cm、長さ１０㎝

すべてのバッグ(タグとラベルを含む)

1 x 製造会社名/ロゴ
2 x アスリートスポンサー名/ロゴ
1 x 競技者名/競技者個人のｿｰｼｬﾙﾒﾃﾞｨｱﾊｯｼｭﾀｸﾞ

→

それぞれ
40cm²,—
最大の高さ 5cm、長さ１０㎝

ドリンクボトル　(最大1リットルのボトル)

2 x 飲み物の提供者/製造者および(または)
アスリートスポンサー

→

それぞれ
40cm²— 最大の高さ 5cm

[国内]　アスリートスポンサー名/ロゴのうちの１つを、あるいは、
競技者名または個人的なｿｰｼｬﾙﾒﾃﾞｨｱﾊｯｼｭﾀｸﾞを、所属団体名/ロゴまたは、
学校名/ロゴにすることができる。　高さは最大５㎝、長さに制限なし。
学校名/ロゴの大きさに制限はなし。

具体例【ファイテン】

パワーテープ

繰り返し掲出 例 ✕

「1ヶ所以外を消すか、
使用しない」対応。

チタンテープ

１つ１つ扱い

○

資料編 II

現在2XUで新しいデザインの商品が複数出ている。

大きなエックスのデザインが入ったタイツなどは広告規定上NGとなっているが、新しいデザインでは薄くXの刺繍が入っているタイツもある。

どの程度まで違反とみなすか、陸連としての見解を確認したい。

【回答】　透かしだろうと、薄くだろうと、「掲出」が確認できれば、数とサイズで　判断。

レッグウオーマー：１０㎠　最大高さあるいは、長さ　４ｃｍ。

※当該商品は　サイズも長さも　✕

スパッツ：一か所　場所は問わないが　４０㎠　最大高さ　５ｃｍ、最大長さ１０ｃｍ。

「装飾的なデザインマーク」　体側または、裾に　連続または１つ　幅　１０ｃｍ。

アルファベット付記のものは　✕

※当該商品（グレー地）は　複数個掲出、また大きく『X』（透かし）も。体側に沿って認められる「装飾的なデザインマーク」としても認められないもの。

※当該商品（ブラック地）は　以前の黄金色ラインのもの同様に、「装飾的なデザインマーク」として認められないもの。

資料編 III

4．ロゴ		広告規程 条文番号
Q A	所属名（ロゴ）を斜めに表示できますか。また、斜め文字も含め、全体に斜めに配置した場合、高さの解釈はどうなりますか。 横なが長方形のものを斜めに掲出〔参照１〕しても構いません。 **<u>斜め文字/ロゴ</u>**表示の場合（右上がり斜めに表示した場合）は、高さは　**左下角から右上角まで、**　と捉えます。 〔参照２〕　高さ・長さを枠として捉え、その範囲内での斜め文字表示は可能です。 T&F.C ↑ ↓ **高さ** ※高さ：前面５cm ：背面 ４cm **参照１** **斜めに掲出 ○** T&F.C **参照２** T&F.C ↑ **高さ** ↓ T&F.C **枠の範囲内での** **斜め文字表示　○** **参照３** T&F.C ↑高さ ↓	〔国内〕

昨年秋の、国スポ でこんなことが起きました！

都道府県ユニフォームのはずなのに？

広告規程違反！！

広告規程違反！！

広告規程 C 7.4

1. 特定の定義

競技エリア（FOP）

競技者が競技を行う場所（略）および競技者が表彰を受ける場合は、待機場所、ミックスゾーン、報道エリア、表彰台およびビクトリーランエリアも含まれる。

◆改正を検討する背景

◆日本陸連の審判員制度の変遷

- 1948年：公認審判員制度を設ける
- 2014年：「3種－2種－1種－終身1種」
  ⇒「B級－A級－S級」へ改訂
- 2021年：C級を追加

◆改正を検討する背景

◆WAの審判員制度の変遷

NTO／ITO という形態を経て、現行の4段階へ

- NAR
- WA Referee Bronze
- WA Referee Silver
- WA Referee Gold

◆JAAFとWAの制度比較

JAAF	WA
• C級：16歳以上 • B級：18歳以上 • A級：B級取得後10年以上（以上、加盟団体審査） • S級：A級取得後10年以上55歳以上（陸連審査）	• NAR：16歳以上、e-Learning＋実技3試合 • Bronze：NAR3年、19歳以上、e-Learning＋Online試験 • Silver：Bronze4年、23歳以上、e-Learning＋Webinars＋試験 • Gold：Silver4年、27歳以上、同上

◆アンケート結果

◆統合に賛成の理由

- 国内ルールと国際ルールの混乱を防げる
- 国内競技会もWAスタンダードへ移行すべき
- 日本陸連制度は昇級試験がなく実力評価が不十分

◆アンケート結果

◆統合に反対の理由

- ブロンズレフェリー試験のハードルが高い
- WA資格が紐づくと取得が難しくなる懸念
- eラーニング必須化で昇格意欲が低下
- 地方では資格が“栄章”として機能
- S級は日本陸連独自で残すべき
- 現行制度を維持しつつWA資格取得を希望

◆JTO／JRWJ制度について

◆位置づけと評価

- 審判技術だけでなく運営·トラブル対応まで網羅
- 内容は WA Referee Gold に匹敵
- 今後も総務直下で継続配置
- 審判長への支援、競技の適正実施を確認
- JRWJも従来どおり配置

◆今後のスケジュール

- 2026年3月以降
  理事会へ原案提示、意見聴取
- 2026年夏ごろ
  ルールブック・ハンドブック等の修改正

2027年4月：新制度開始（予定）

◆その他

◆C級審判員について

活用されている加盟団体がある一方、

- C級→B級への移行の壁
- C級取得年齢の引き下げ要望　という声

◆B級でも主任が可能な現状への

基準設定を求める声

➡具体的な作業の中で整理していく

◆その他

◆登録料・システム等について

- 日本陸連の登録料に級別差はなし
- 加盟団体独自の設定の可能性
- JAAF STARTで審判等級入力機能を改修予定

◆2027年制度改正に合わせ、審判手帳更新の可能性

➡ 発注数・在庫管理に留意

2025年度全国競技運営責任者会議

世界陸上2025東京大会　ビデオ判定事例

～ルール解釈・適用の参考として～

2026年２月11日

日本陸上競技連盟

競技運営委員会

TR17.1.1　意図的ではない妨害

TR17.1.2　意図的な妨害

TR17.2.3　レーン侵害

TR24.7　バトンの受け渡しはテイク・オーバー・ゾーンの中で　バトンの位置のみが決定的なもの

TR24.20　バトンパスで走り出す位置は、テイクオーバーゾーンの中から

TR30.2　LJ･TJ　着地場所を離れる際の最初に触れる位置①

TR30.1.5　着地の際に砂場の外の境界線に触れていないか①-1

TR32.14　投てきの際の足がサークルやラインの縁に触れていないか①-1

TR32.14　投てきの際の足がサークルやラインの縁に触れていないか②

世界陸上でのスタート審判長（WA スターター）判定について

【Case Ⅰ】男子 100m 予選 6 組でオートリコールが作動し、RT が 0.099sec であった。
裁定：（SIS の波形、*SIV を熟考の上で）グリーンカード提示した。
*SIV=Start Information Video
⇒後刻、WA スターターに「不正スタートでＤＱなのではないか」と質問。『0.099sec の数字だけで DQ とするケースや審判員もいる。もし今回不正スタートで DQ と判定すると、抗議中として走らせ、その後ビデオを見せることになる。その時に私（WA スターター）は（不正スタートの）判定を支持する言葉を持たない』との回答。（今回は）SIV から号砲前の動きは一切確認できず、波形も 0.099 までまったく立ち上がっていないことから上記対応とした。あくまでこの大会での判定ということでご理解していただければ。

【CaseⅡ】男子 100m 準決勝 3 組で 3 レーンの競技者の局所的な動きがあり、隣の 4 レーンの競技者が飛び出しオートリコールが作動し、RT は 0.088sec であった。

裁定：3 レーンの動きが 4 レーンの不正スタートを誘発させたとして、3 レーンの競技者にイエローカードが提示された（TR16.5.3）。

【CaseⅢ】男子 800m 予選 5 組で 6 レーンの競技者が On your marks の合図の後、ローリングスタート（体を止めずに動いたままスタート）をしようとした。スタートがスタートを中断した競技者の前方で監察して（リコーラーを努めて）いた WA スターターからイエローカードが提示された(TR16.5.2)。遅延行為としてイエローカード対応とした。

※本来イエローカードを提示するのは審判長であるが、200m や 400m 等の種目では（審判長が現場まで向かうと時間をロスしてしまうため)、権限を委譲されたＷＡスターターがイエローカードを出すことがあると事前にチーム内で情報共有されていた。

【CaseⅣ】男子マラソンで最内の競技者が号砲前に飛び出してしまった。スタート審判長から「レースを止めるように」と指示があり、レースを止めリスタートした。後刻ＷＡスターターよりマラソン・競歩競技（ロード種目）については、不正スタートを撃ち戻す必要がないとの指摘を受けた。

ご清聴ありがとうございました。

講習内容等に関する質問・問い合わせ

https://forms.gle/JisM2vKS3P17d8Qj7